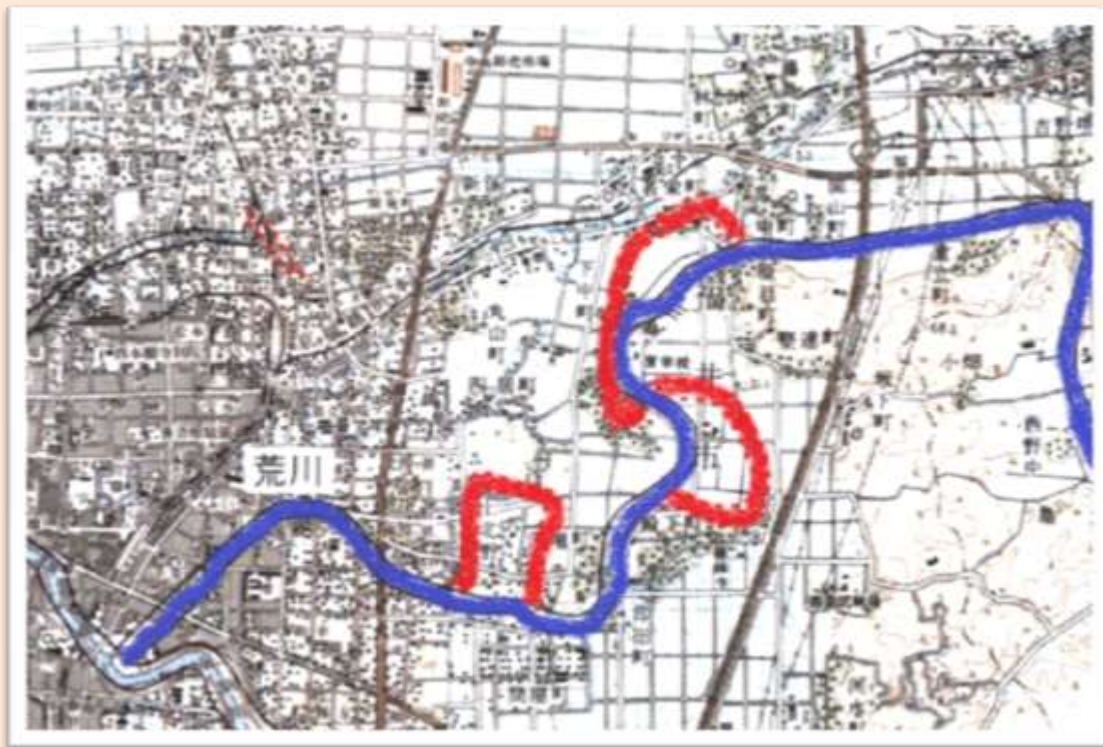


母なる荒川…荒川に支えられ栄えた流域

荒川は、九頭竜川と足羽川の二大河川の氾濫によりできた沖積土の縫合地をS字形に縫って流れる川です。この川は永平寺町南の吉野ヶ岳(標高547m)に源を発し、福井市と永平寺町との境の原目あたりで南西に向きを変えて大きく蛇行し、印田町で西に向きを変えて、城東から勝見に向かい木田橋付近で足羽川に合流します。長さ10km程度の水路は屈曲しており、しばしば氾濫したので荒川の名がついたとも言われています。この近辺住民はこの川の恵みを受けて、その地に古くから住みついできました。

参考文献

「円山地区の昔と今」平成 19 年発行
「円山東村史」昭和 55 年発行



— 明治末期の河道
— 現在の河道

農耕

肥えた土壌で、荒川に沿って集落が発達

荒川(四ツ井川、吉野川ともいう)流域は低湿地が多く、排水が不良で出水のときは冠水するので、一見水田には不適地のように考えられるが、実際には土壌は肥決で耕土が深く、低湿地にしては多量の収穫を得ることができる土地でした。この低湿地を水田として利用することで早くからこの地に人が住みつき、川沿いに集落を形成していったと考えられています。

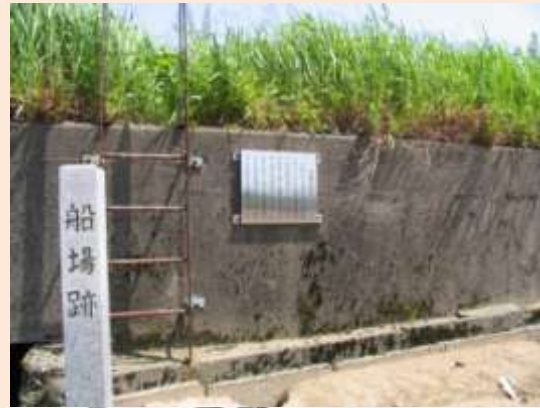


舟運

昔は九頭竜川から分かれた流れがこの荒川に合流していたので、荒川は水量が多く、その上、流れも足羽川と九頭竜川の二つの氾濫地域をうねうねとゆるやかに流れていたため、古くより舟でものを運んだりすることに利用されていました。

陸路運送の十分発達していなかった藩政の頃は、重い荷物を大量に運ぶには舟を使うより他によい方法はありませんでした。荒川を利用して足羽川を経て三国の港へ運ぶ水上交通はよりにぎわい、食料やお茶や綿などの交易で松岡や志比方面へ与えた便益は相当なものでした。

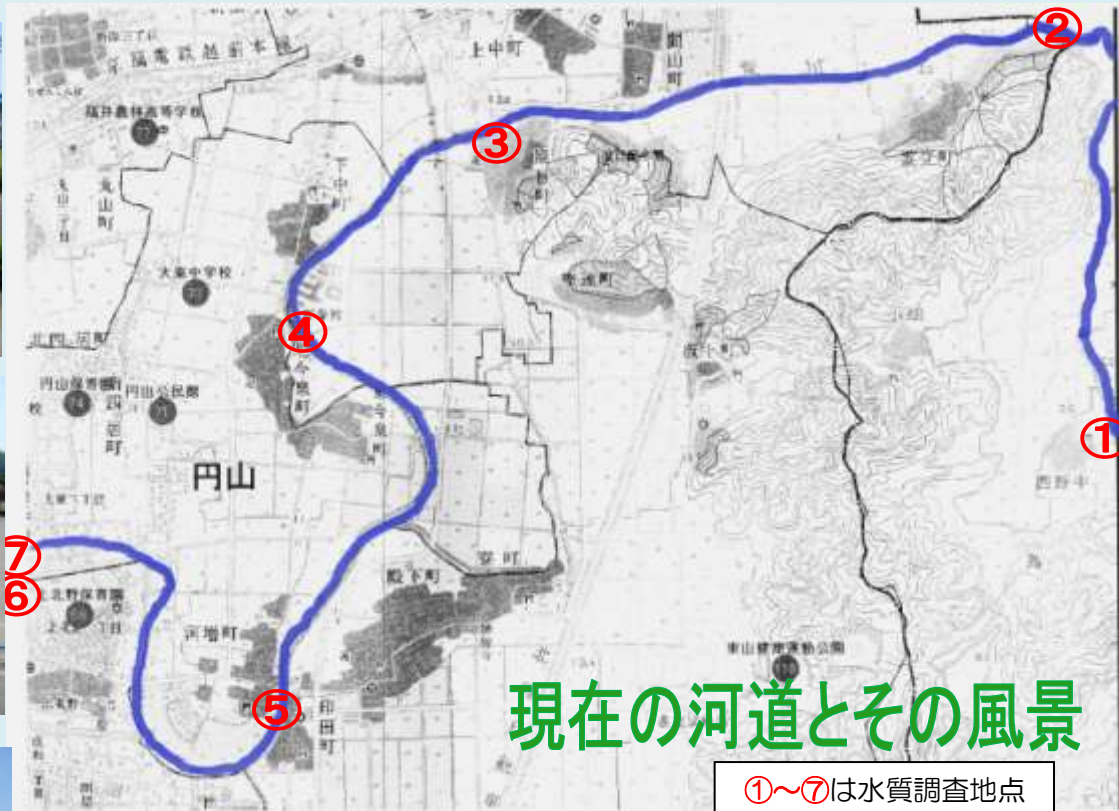
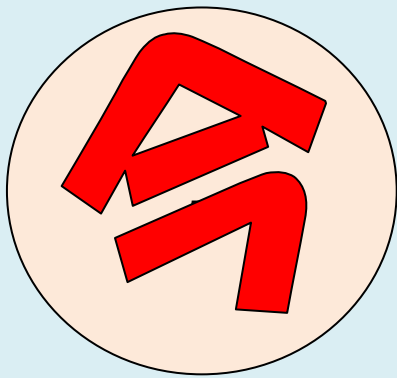
そのためどの村にも「舟河戸」と言われる舟つき場があり、舟荷の積みみや下しをそこでやり、米、家普請などの重い材料の輸送もあまり苦しむことなく、各村はこの「河戸」により水路運送の大きな恩恵を受けていたといえます。



荒川の改修



福井県における中小河川改修が本格化したのは、昭和 21 年からです。荒川は昭和 22 年度に災害復旧と合わせて改修工事に着手し、昭和 25 年に完成しました。この工事は上北野、東今泉地区において蛇行していた河道を短く、直線的にする工事でした。しかし、その後昭和 28 年 9 月の台風 13 号によって浸水家屋が 4,600 余戸にもおよび、そこで、昭和 30 年に足羽川との合流点に位置する水門を改築し、下流の水流・水量等の調整能力の拡大が図られました。しかし、昭和 34 年台風 7 号および 15 号のもたらした洪水により、またもや、5,000 戸を超える家屋が浸水する被害が生じました。そこで、昭和 35 年度から堤防の嵩上げと足羽川との合流点に排水機場を新設しています。その後改修を 8 回行い、平成 8 年度には御鷹橋付近まで河道の改修が行なわれている。平成 16 年の福井豪雨では、驚異的な雨量によりまたもや荒川が氾濫したが、遊水池の整備や川底の改修などの成果があって以前より被害は最小限に抑えられています。



旧荒川の現在 ↓ ↑



環境をまもる 景観をまもる

荒川の下流にあたる旭地区では、20年前から子ども会育成会と公民館が主催して「荒川の水質調査」を実施しています。近年の結果からは、城東橋下流では大変汚い水から汚れた水に変わってきています。みんなが環境に気を配り、生活排水があまり流れ込まないようにってきていると言えるかもしれません。また、重立地区では、亜硫酸濃度が上がっている傾向もあります。それは水田での農薬の関係かもしれません。

I きれいな水 II 少し汚れた水 III 汚れた水 IV 大変汚れた水
(平成22年度旭公民館主催の荒川水質調査結果報告書より)

年度	上吉野 ①	重立 ②	上中町 ③	東今泉 ④	御鷹橋 ⑤	問屋団地 ⑥	城東橋 ⑦
2年	I	I	III	III	III	IV	IV
5年	I	I	I	I	IV	IV	IV
8年	I	III	III	III	III	III	III
11年	I	I	III	III	III	III	III IV
14年	I	I	III IV	III	III	III	III
17年	I	I	I	I	III	III	III
20年	I	I	I	I	I	III	III
22年	I	I	I	II	II	III	III



上北野自治会（和田地区）

毎年、自治会員全員で荒川の清掃活動・草刈りを行い、景観を守っています。

荒川の生物調査

間山町～原目町（東藤島地区）

＜調査結果から分かったこと＞

カワゲラの幼虫、スジエビ、カワムツ、アブラハゼなど23種類もの生物が見つかりました。きれいな水に生息するカワゲラや汚い水に生息するアメリカザリガニも生息しています。この豊かな自然を残していくためには、生活排水で川を汚さないようにしていかなければならないことを実感します。米のとぎ汁は花壇や植木にまく、油污は拭き取ってから洗う、洗剤をたくさん使わないなど住民一人一人が荒川を汚さないように心がけていかなければならないと思いました。



水路の生き物調査（岡保地区）

岡保小学校横の水路は、一面に広がる田んぼの真ん中をとって最後には荒川に流れ込みます。

その小さな水路に住む生き物を調べることで、荒川と繋がっているということが、水辺の環境を保つためにどんなに大切かということを学びます。



未来

荒川はこの地に住む住民にとって、ずっと受け継がれる貴重な地域資源と言えます。これから未来の人にどうやって、どんな形で、つなげていきましょうか・・・荒川を憩いの場として・・・例えば ジョギングコース・散歩コース・・・生物が住みよい環境を維持させて・・・

遊水地って
どんな場所？

昭和 35 年から流域全体をとらえた総合的な河川改修（延長約 10.6 km）がおこなわれています。その一環として遊水地事業がすすめられています。

遊水地とは、洪水で川が氾濫しないように、一時的に水をためておく場所のことです。

近年、市街地の拡大により、同じような働きをする田んぼが減少し、川に流れ込む水の量の調整をする機能が少なくなってきました。

福井市街地を貫いている荒川は、川幅を広げたり、川底を掘り下げたりする工事に多大な時間とコストがかかることから、洪水対策として上流域に遊水地が誕生しました。

遊水地の未来

現在の荒川遊水地では、ガマなどの植物を保全し、生き物が生息しやすい環境になるよう配慮されています。また、鳥の絶好のえさ場となっており、これまでに18科26種類の野鳥が確認されました。

